

首相悲願へ強気貫く

安保法成立

誤算続くも最優先

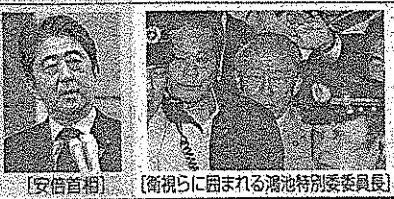
集団的自衛権行使を可能にする安全保障関連法が十九日に成立した。誤算続きで曲折を経た国会審議。第一次政権からの「悲願」を達成するため、安倍晋三首相は強気に安保政策を最優先課題として掲げ続けた。日本を取り巻く安保環境の変化に対応するために防衛政策の転換を図るとの自らのかたくなな思いと、戦後の平和国家の姿を懸念する民意は最後まで交わることはなかった。

「首相に再挑戦したかった。首相は安保法成立後の十九日、周辺にこころを漏らした。集団的自衛権の行使容認は首相が二〇〇六年九月に発足した第二次政権から実現を目指した「政治生命を懸けてきた」（自民党幹部）政治課題にほかならない。成立の瞬間となった十九日午前二時十八分の首相官邸の執務室。テレビを前に

五月二十六日に衆院から始まった国会審議は、六月四日の憲法審査会で参考人として出席した憲法学者が口火を切る形で「違憲」法案との批判が噴出。参院審議入り直前の七月二十六日に首相補佐官の「法的安定性は関係ない」との発言が

した首相は安堵の表情を浮かべた。一緒に見ていた菅義偉官房長官や官邸スタッフと握手を交わした。

5月	26日(衆) 安保法案審議スタート	24日 衆院憲法審査会で3人の学者全員が法案は「違憲」	25日 自民党議員が報道機関への圧力を求める発言その後、議員を処分
6月	22日 通常国会として、現憲法下で最長の95日間の延長を決定	17日 新国立競技場「白紙に戻す」と表明(政権批判回避狙う)	16日 世論調査で内閣支持率急落
	8日 維新が対案を提出	18日 中谷防衛相の核兵器も運搬可能な答弁や防衛省の内部資料問題で審議進まず	26日 首相補佐官が安保法案をめぐり「法的安定性は関係ない」
7月	16日 与党採決強行で衆院通過	10日 政府の辺野古移設工事1カ月中断開始(沖縄県との衝突先送り)	14日 おわび言及の安倍談話を閣議決定
	27日(参) 審議スタート	30日 国会周辺で大規模デモ、以後、活発化	8日 法案審議中の異例の総裁通告(首相無投票再選)
8月	16日 与党は法案をめくり次世代など3党と合意	16日 与党は法案をめくり次世代など3党と合意	17日 特別委で採決強行
	17日 特別委で採決強行	19日 与党と野党3党などが賛成し法成立	
	19日 与党と野党3党などが賛成し法成立		



首相発言の全文

安全保障関連法の成立を受けた安倍晋三首相の発言全文は次の通り。

平和安全法制は国民の命と平和な暮らしを守り抜くために必要な法制で、戦争を未然に防ぐためのものだ。子どもたちや未来の子どもたちに平和な日本を引き渡すために、必要な法的基盤を整備された。今後とも積極的な平和外交を推進し、万が一への備えに万全を期す。

今回、参議院では、野党

飛び出し「世間に安保法制に負のイメージを与えた」(菅野功)。「戦争法案」「徴兵制復活」といった野党側の批判が強まる中で衆院の採決強行をめぐり、内閣支持率は下落し政権運営は揺れた。だが首相は「後世には必ず評価が得られる」と終始、強気の姿勢だった。

強引な国会運営や法案への批判をかき消そうと狙ったのが野党側との修正協議。期待した維新の党との修正協議は進展が見込めない中、助け舟を出したのは日本を元気にする会の井上義行国対委員長。第一次政権で首相の腹心として政務秘書官を務めた人物だ。

井上氏は九月十二日夜に首相に電話し、自衛隊派遣の国会関与を強化する方針を閣議決定するよう提案すると、首相は「まことまんだつたら、俺は(閣議決定を)のむ」とゴサインを出した。九月十六日に与党と元氣会や次世代の党を含む

からも複数の対案が提示され、議論も深まったと思う。民主的統制をより強化する上で合意が、野党三党となされたわけだ。与党だけではなく、野党三党の賛成も得て、皆さまの支持の下に、より幅広く、法案を成立させることができた。今後も国民に誠実に粘り強く説明していく。

世論調査の結果によれば(国民理解のために)まだまだこれから粘り強く、丁寧に法案の説明を行っていく。

9/20
日 3/14